

定期学習会記録

2006/12/02 尾間木公民館

[参加者] 金子 三浦 橋元 北野 渡辺 福島 関川

■わくわくフェスタ

当会からは、北野、佐藤氏、金子、福島が出席した。

■北野氏持参の写真

イギリス各所の写真について、説明があった。

■歴史を学ぶ

○「日本はなぜアジアを見下すのだろうか」(北野)

★資料

・1800年代後半の世界の情勢と、日本と中国、日本と朝鮮の関係について。

○「日本人が虐殺をするまでに至ったのには、どんな背景があるのだろうか。」という問いかけからの話し合いで、次のような意見が出た。

- ・欧米化からの社会的背景のみならず、過去からの国民性があるのでは。
- ・日本は、宗教がないのかもしれないと思うことがある。
心の中に善悪の判断がないのではないか。
「心の中に聞いてみなさい」ではなく、「はずかしいからやめなさい」という見栄。
- ・人格形成の学問ではなく、単なる点数稼ぎの「勉強」になっている。
- ・現在問題になっているいじめ問題も、心の中に判断力が育っていないからではないか。
- ・戦時中の例で、お国のためと、出兵中の青年の手紙には勇ましく書いてあったが、後にみつかった日記には、戦争の大儀がわからぬといった内容があった。心がある人もいたはずだ。
- ・政治的な思惑、仕組みによって強制的に動かされ、戦場に送られる人々。当時の兵士の気持ち、現在の兵士の気持ちには通ずるものがあるのではないか。教育などもからめて考える必要があるのではなかろうか。
- ・「DEATH NOTE」は、世界ではやっているのか？「死」などをテーマにしたものが流行るのは、どうなのか。日本の国民性が問われる気がする。
- ・現在の子どもは、10歳までに、バーチャル世界で8000件の殺人を見ている。
- ・機械に接することばかりで、現実に体験することが少なくなっていることが、問題だ。
- ・機械を通じたコミュニケーションは、本当のコミュニケーションではない。ふれあってこそ、心が育つのではないか。読み聞かせをCDでやっている人を見るが、それは意味がないことだ。
- ・誰を国のリーダーにするか、というのも重要なことだ。
- ・経済が豊かになるから戦争をする、理由を付けていじめをするなど、理由をつけることがもはや問題だ。

□次回予定(12/16)

- ・歴史を学ぼう(第一次世界大戦を中心に)